

なごや寺町アートプロジェクト

Nagoya Teramachi Art Project

西倉 潔・平林 薫・伊藤豊嗣 Kiyoshi Nishikura, Kaoru Hirabayashi, Toyotsugu Itoh



●「なごや寺町アートプロジェクト」企画の経緯

名古屋造形大学は2017年度に50周年を迎えた。年間を通じて多くの記念事業が企画され、その第一弾として、2017年5月24日から28日にかけて「なごや寺町アートプロジェクト」が開催された。「なごや寺町アートプロジェクト」とは、名古屋市中区橋町にある東別院、西別院周辺での街なか各所に多数のアート作品を展示したプロジェクトである。

2016年4月の東別院「親鸞聖人750回御遠忌法要」に向けて盛り上がる機運を背景に、東別院、西別院の若手僧侶、地域の若手商店主を中心にして、2013年12月に寺院周辺地区の朝市の連携や地域の未来を考える会として「東西別院まちづくり協議会」が発足した。その後、日置神社関係の加入や地域の諸団体の加入などが相次ぎ、発展的に2016年1月に「なごや寺町まちづくり協議会」(以下協議会)と改称した。

協議会の活動は、毎月28日にこの地区で開かれる4つの朝市を関連付ける企画として「まちめぐりガイドツアー」、地域の人が地域の歴史を語る「大木戸フォーラム」、使い方や管理に苦慮する「どんぐり広場再生計画」など、多彩なエリアマネジメント的活動をしている。今回のプロジェクト名称は、協議会名称に因んで「なごや寺町アートプロジェクト」とした。

この企画は、当初、協議会理事長で崇覚寺住職の水谷 玄氏が、2014年春頃、「アート展のような文化的なイベントをこの街でやりたい」と提案したことからはじまる。その頃は、水谷氏のこの意向に対して、街なかでのアート展の難しさ-地域住民との調整、資金などを横浜の「黄金町バザール」で見聞きしている私は、よい返事ができぬまま月日が過ぎていった。

大学では、2016年秋、小林亮介学長が、「来年50周年を迎えるにあたって、本学らしい企画で50周年記念事業を行いたい」と提案された。話し合いを通して、ホテルでの記念パーティーのよう

なものだけでなく、一年間を通して様々な行事を50周年記念事業として連続させていく企画となった。

一方、協議会の方では、数万人の人出となった2016年5月「親鸞聖人750回御遠忌法要」が街全体に波及した賑わいの記憶を2017年も継承できないかという議論が起きていた。この議論はやがて地域あげでのイベント「縁市」の企画となっていく。

協議会と大学の意向を重ね合わせることで、「なごや寺町アートプロジェクト」は始まっていくことになる。東別院、西別院、日置神社、崇覚寺などの寺や神社、お東幼稚園、本町通り沿いの商店、どんぐり広場などに、名古屋造形大学に関連するコンテンポラリーアーティストの協力でアート展示を行う企画が動き始めた。この地域の街なかでのアート展示は、750回御遠忌法要に先立つ2015年3月28日の「お待ち受け大会」での小さな企画として行われた、全寺香前門での名古屋造形大学コンテンポラリーアートコース(日比野ルミ元教授指導)の学生による展示が、先事例として参考になった。また、この展示は地域の人々の記憶に残っていた。新しい試みは突然発生するのではなく、このような小さな試みの積み重ねがあるから可能なのかもしれない。

「縁市」企画としては、もともとある4つの朝市に2つの企画(アンティークマーケット、子供相撲)が加わり、さらに「アートプロジェクト」が連なり、7つの企画が同時に動く大きなものとなった。

何よりこの大きな企画が成功したのは、東別院、西別院周辺地域の人々のアートへの興味と期待と寛容さがあるからである。そして、たくさん名古屋造形大学出身及び関係するアーティストの深い理解に支えられ、中日新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、CBCテレビなど、多数のマスコミ報道に取り上げられ、多くの観覧者を集め、「なごや寺町アートプロジェクト」は「街なかアート展」として成功した。

(西倉 潔)

●アートプロジェクトの内容

このアートプロジェクトでは、12箇所の会場を使って展開する上で、名古屋造形大学の卒業生、在學生、教員で構成したアーティスト達に参加を呼びかけた。

普通、「展覧会」と言って連想するのは、美術館やギャラリーのホワイトキューブの空間に、並び飾られる美術作品展だ。この白い壁に囲まれた展示スペースの歴史は、実はそんなに古くない。「白い立方体」は1929年に開館したニューヨークの近代美術館(MoMA)が最初に導入した。近代美術が「美術」を追求し、鑑賞体験を純粋化していく結果として、何もないスペースは作られ、今や展示室の必須条件のように定着していったのだ。

展覧会イメージを作るために以下の文章を作成した。

「街に溶け込むアート 街に潜むアート 街と同化するアート
街から突出するアート 街から排出されるアート
街から紡ぎ出されるアート 街に包含されるアート

かつて、日本でも西洋でも絵画や彫刻が発展してきた歴史的背景には、権力者の繁栄を形としてとどめ、民衆の啓蒙的な導きを目的とし、宗教的建造物を飾る画家や彫刻家の果たす役割があった。今この寺町において現代芸術を受け入れ、コンテポラリーアーティストのわがままな展示を可能にいただいた、寺町関係者の方々に本当に感謝申し上げたい。」

そして若きアーティストのチャレンジ、人や物、そして目に見えないものたちの融合で出来上がった作品についてここに記そうと思う。

〈平林 薫〉



「なごや寺町アートプロジェクト」案内冊子内会場マップ/マップ制作：山口愛加

●東別院対面所会場



戸谷文香



天野華恵

赤いカーペットの広い回廊を使って展示された。ふだん透明な質感の絵画を制作している戸谷文香は、FRPの立体作品を展示していた。また寺という雰囲気にもマッチして、天野華恵は描写力のある豊かな表現の完成度の高い日本画を見せていた。建築大学院生の、野口茉莉乃は東別院界隈、まちづくりプロジェクト、吉田一誠は大須町商住路地の大きな建築模型を提示しプレゼンテーションしていた。コミックイラストレーションの教員三輪布巳子は美しいイラスト屏風を展示。鈴木優作は「手羽先原人」の名で既に評価がある。手作りの骨を連ねた衣装を身につけ、ラップパフォーマンスを縁市会場でを行い、取材を受け大変な人気となっていた。



三輪布巳子



鈴木優作



野口茉莉乃



吉田一誠

●どんぐり広場会場



ここはやる気のある名古屋造形大学の美術在校生3人組で構成した。小さな児童公園を使い野外という難しい条件であったが、彫刻2年の森正響一は陶器のコミカルな犬の立体をインスタレーションし、また同じく上野円蔵はこの5月の葉桜の時期に、枯れた桜の花びらを陶器のカップに入れ、公園の樹の下に配したコンセプチュアルなテーマを提示していた。洋画2年杉谷遊人は、陶破片に細かく描かれた風景ドローイングを公園に散りばめた。



森正響一



杉谷遊人



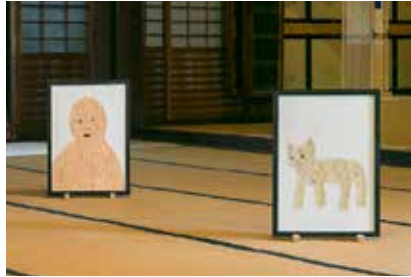
上野円蔵

●崇覚寺会場

名庭百選にも選ばれている美しい庭を持つ崇覚寺には、ベテランのアーティストにお願いした。木村充伯とタン・ルイは大きな2人展を「アートラボあいち」で開催中であった

が、木村は人、生活、生き物などをモチーフとし、独自の彫刻という観点を打ち出し、それぞれをユニークに愛情をもって捉えている作品を展示。タン・ルイは食物をテーマにカラー

ジュ作品を立体的に展開させた。沖啓介は脳の3Dモデルをインスタレーション、崇覚寺の庭に出現させ不思議な一面を演出していた。竹田尚史は物質の質量について、その消滅と存在するというを一貫したテーマにしているが、本堂のスペースに人型の模型と植物の平面作品を提示した。田島圭は一貫して取り組んでいるミニマリズム的な絵画理論に基づき、意欲的かつ大胆に、ご本尊のある祭壇に並列状に大きな塊の作品を複数展示していた。



木村充伯



沖啓介



タン・ルイ



田島圭



竹田尚史

●美濃佐商店会場



山下拓也

酒屋の店先を使い、山下拓也はネットオークションに出されたキャラクター商品の写真を展示。その場所のできることをプランニングする山下の考え方だ。

●天満屋会場

若手の2名のペインターを配したが、うどん屋の店舗空間でたくさんのドローイングを展示してくれた。松永美穂は風景や身近なものを描き、直接ガラス窓に展示した。また、原嶋恵梨奈は食べ物の絵画をメニュー表が並ぶ壁に展示した。

のを描き、直接ガラス窓に展示した。また、原嶋恵梨奈は食べ物の絵画をメニュー表が並ぶ壁に展示した。



松永美穂



原嶋恵梨奈

●おひがし幼稚園会場



縁市の日のみの展示であったが、山田 亘は沢山のひらがなのプレートを教室に置き、来場者に遊びを提供した。また、スイッチはデジタルメディアデザイン教員の外山貴彦が学生メンバーを率いたチームであるが、参加

者がボールをぶつけることでプロジェクションした映像が様変わりする。両者とも、幼稚園という場にふさわしい、コミュニケーションアートとしてインタラクティブな作品を展示してくれた。



山田 亘



スイッチ

●日置神社会場

仮設店舗も出店している中、神社の境内を使い若手のアーティストがチャレンジしてくれた。長瀬崇裕は神楽殿を使い炭化させた

昆虫を象徴的にインスタレーションしていた。板谷奈津は家族の衣料品に小さくメッセージを刺繍し、境内の樹木にぶら下げるとい

作品。近所の年配のご婦人が雨に濡れている、と心配し声をかけてきたが、洗濯物ではない旨伝え丁寧に対応した。小杉滋樹は陶製の大きな壺にペインティングそれを植え込みに配した。ギャラリーで見るより馴染み異次元のような雰囲気があり面白い。丸山ナオトは廃材や切れ端など、日常から排出されるものに手を加えたり描いたり、境内の片隅に配置、Hidden Art (隠された美術)と解釈できる。



長瀬崇裕



板谷奈津



小杉滋樹



丸山ナオト

●柏彌紙店会場



山口由葉

斉と公平太は「オカザえもん」というキャラクターを生み出したアーティストであるが、紙店の優遇で襖をしつらえシンプルな図形の襖絵を描いた。またヒガチュウというキャラクターを制作。山口由葉は表現主義的な技法で絵画と陶製の立体を展示、色面の分解と視覚的な試みが見て取れる。

●妙善寺会場

七面女神の祀られた寺は4人のアーティストに任された。渡辺泰幸はコミュニケーションをテーマとした経験豊かなアーティストで、境内の樹木にたくさんの陶製風鈴を設

置、時折の風に爽やかなサウンドを演出していた。子供のような落書きや工作物を作る矢田量子は、陶板にドローイングして、紙を散らかしたように堂の入り口に配した。森田

恵理子は日々のドローイングを堂内の障子にはめて展示。近藤香里は本尊の設置されている床に、猫のイメージを描いた布製クッションをインスタレーションしていた。



渡辺泰幸



近藤香里



矢田量子



森田恵理子

●高顕寺会場



摩利支天が祀られている曹洞宗の寺であるが、アーティストたちは共通認識として、[Marici] 太陽や月の光線を意味する神であることを、作品の基軸として展開していた。設楽 陸はその神に仕える兵のフィギュアを、大胆にもご本尊の周辺に配列した。常に現

実と妄想の狭間にいるストーリーを構築するアーティストだ。佐野友美も中小の平面作品を堂内に配し、絵画のインスタレーションを展開した。植松ゆりか は光というイメージから、鏡のかけらを堂内と敷地内に隠されたように配していた。



設楽 陸



植松ゆりか



佐野友美

●全香寺会場



小粥幸臣

駐車場、本堂の入り口などに、小粥幸臣は自作の陶器をインスタレーションしていた。日本語や英語で短な言葉が書かれ膨大なメッセージを感じさせた。

●西別院会場



鈴木雅明

ここにもたくさんの仮設市が立ちイベントが催されていた。本堂内に鈴木雅明は、樹木や光と影といった現象を抽象的に構成し、大きな平面作品を展示。また吉田葵は、



吉田葵

有機的な文様を透明感のある支持体に描き、スケルトンにこだわりガラス面にたくさん展示していた。

●イベントの運営を通して

企画の難しさ

「なごや寺町アートプロジェクト」は、2017年5月24日から28日の5日間という短い期間だったが、この地域では初めての大規模な「街なかアートイベント」であり、30組を超える規模のことになれば、国内でもかなりの大きさのアートイベントと言ってもよいものとなった。展示場所が、理解ある寺や神社、商店であるとしても、そこにアート作品を置くというだけで不測の事態を心配する声もあった。まずは「なごや寺町まちづくり協議会」から展示場所各所へのお願いと説明を行い、各所の責任者に「展示場所として不都合な場所があるなら申し出てください」と伝えた。

次にアーティストと展示場所責任者や商店主との顔合わせを行った。しかし、各アーティストへ今回の企画趣旨をもれなく正確に説明していくことの難しさがあった。展示場所を提供する側の不安や不明さ、あるいはアーティストへの連絡漏れなど問題が噴出する時期もあった。各所各位に丁寧に何度も説明することでなんとか乗り切った。

なごや寺町アートプロジェクトツアー／名古屋造形大学は、2014年春から毎月28日の朝市に東別院から西別院までの寺院や神社や古い商店を案内する「まちめぐりガイドツアー」を協力開催している。今回はこのガイドツアーを、展示作品を案内するアートプロジェクトツアーとして開催した。主担当は建築の大学院1年生、その他は多数のコースの学生が協力してツアーを行った。28日当日に参加を呼びかけ、20名のツアー参加者があり成功だった。

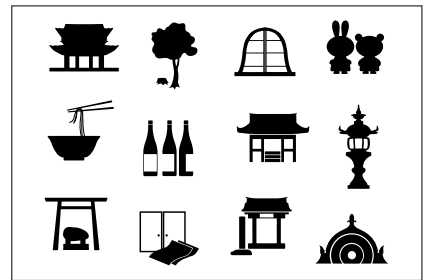
スタンプラリー／期間中、12の展示箇所スタンプを置くスタンプラリーを行った。この企画には、アート展示に馴染まないのではないかという意見もあった。しかし、この街ではあまり馴染みのない街の中での展示で、多くの人に来てもらうのによききっかけになるのではないかということで、スタンプラリーを行うことになった。スタンプラリーのスタンプを押す台紙を兼ねるパンフレットを持つ親子連れや子供達のグループが、普段は静かな街をめぐる光景が各所で見られた。最終28日の景品交換日には午前中から交換所に行列ができ、200個の景品はあっという間になくなった。(西倉 潔)



アートプロジェクトツアー



展示会場でのスタンプコーナー



各展示会場のスタンプ図案 (デザイン：伊藤豊嗣)



展示会場サイン



スタンプラリー景品交換所



スタンプラリー景品 (制作：渡辺泰幸、平林 薫)